



藤っ子

枚方市立藤阪小学校
学校便り 11月号 No.7
令和5年 10月30日

令和5年度全国学力・学習状況調査の結果について

校長 小林 一夫

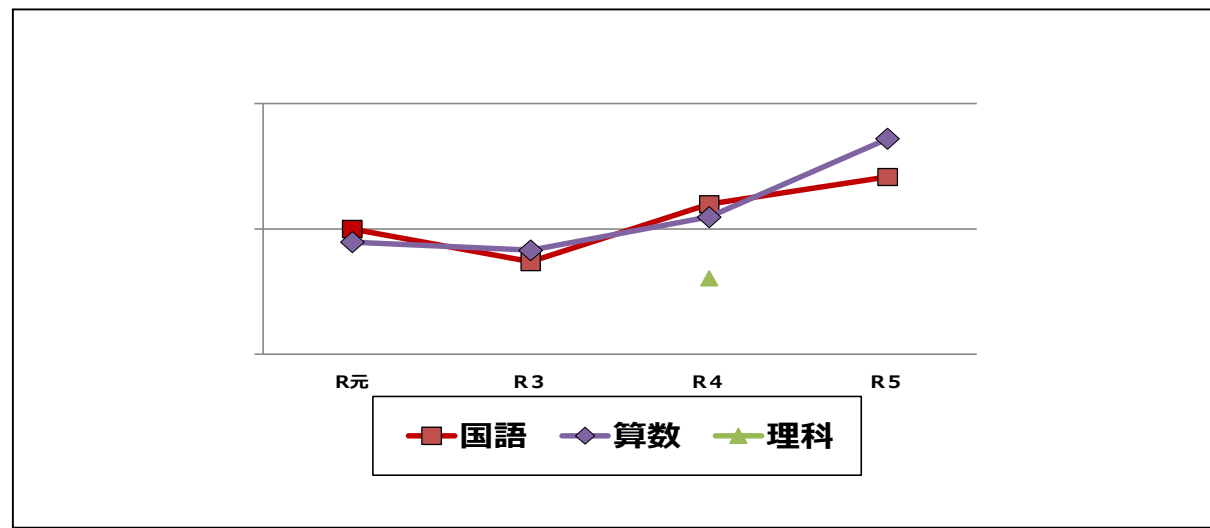
文部科学省が今年4月に実施した、令和5年度全国学力・学習状況調査の結果について、全国を基準とした経年推移等によって、本校の学力や学習の状況を保護者の皆様にお知らせします。結果によると、児童の生活習慣と学力には相関関係があることから、引き続き、保護者の皆様にもご協力をお願いいたします。

【全体概要】

※調査結果について
教科や出題範囲が限られていることから、
全国学力・学習状況調査により測定できるのは、学力の特定の一部です。

本校学力調査の結果

【本校平均正答率の経年比較】



※本校ブログ・フォームページに掲載するため、基準軸の数値（平均正答率）は省いています。
※令和2年度は中止のため、掲載していません。また、理科は令和元年、令和3年度、令和5年度未実施の為、掲載していません。

<学力調査結果の概要>

○国語について

「言葉の特徴や使い方に関する事項」「情報の扱い方に関する事項」「話すこと・聞くこと」「読むこと」の領域は概ねできている。
一方、「書くこと」については全般的に課題がある。

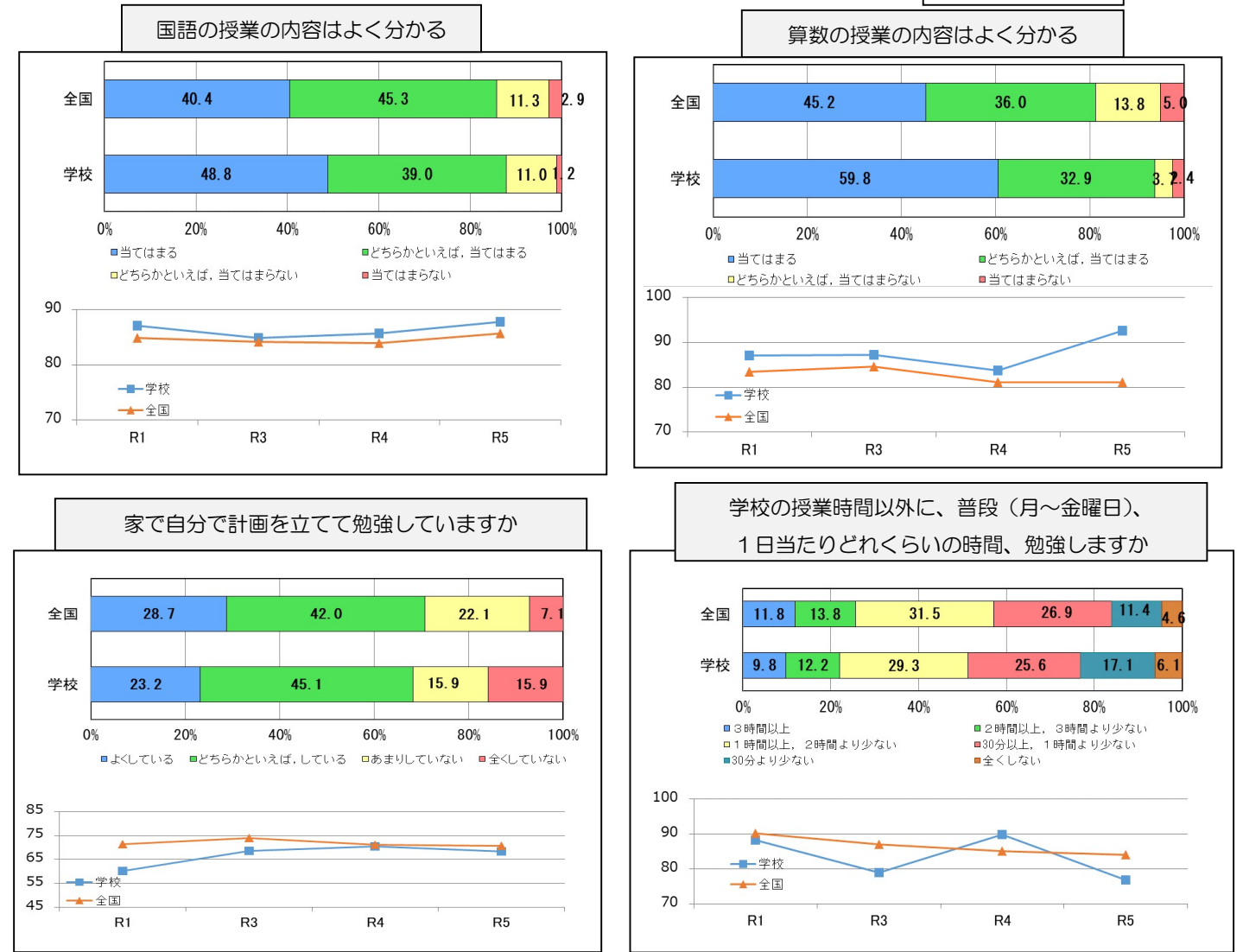
○算数について

「数と計算」「図形」「変化と関係」の領域は概ねできている。
一方、「データの活用」領域については用語の意味を理解することに課題が見られる。

質問紙調査の結果

※帯グラフは、左から「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」「どちらかといえば当てはまらない」「当てはまらない」を示しています。
※折れ線グラフは、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の合計数値となっています。
※無回答があるため、帯グラフの合計数値は100にならない場合があります。

質問紙調査結果の中から、主な項目について、本校と全国の経年比較をお知らせします。



<質問紙調査結果の概要>

・国語（87.8%）算数（92.7%）、ともに授業の内容がよく分かる児童が相当数であり授業が成立していることが、今回の平均正答率の全国比との比較に現れている。

・一方家庭学習においては、計画性・実質の学習時間においてはここ数年来の課題である。特に、30分以内から全く学習をしない児童が全体の23.2%は大きな課題がある。

まとめ

・全学年とも授業規律がほぼ保たれている本校の現状からみると、ここ数年の全国学力状況調査の正答率をみると徐々に右肩上がり伸びてはきているが、本校児童が本来持っている子どもたちの力はまだまだ未開部分があると考えられる。
・今後は我々教師が日々の授業改善を更に深め、6年間を見通したカリキュラムを再構築し、学校体制で本来子どもたちが持っている資質・能力の向上に力を尽くすことが最大の課題であると考えられる。